

第28回企画展

『水木田遺跡と縄文時代中期前半の山形』

記念講演会

「山形県の縄文時代中期前半の文化動態」

講師

多賀城市教育委員会

菅原 哲文 氏

令和2年11月15日（日） 午後1時30分より

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

# 山形県の縄文中期前半の文化動態

多賀城市埋蔵文化財調査センター 菅原哲文

## 1 はじめに

縄文時代中期前半は、今から約 5,500 年前から約 5,000 年前の時期である。山形県内の状況は、中期初頭から前葉、中葉にかけて遺跡数の大幅な増加が認められ、各盆地に拠点的な大規模集落が形成されていく。また、そのような拠点集落跡には、10mを超えるような大型住居跡が建てられ、全体として放射状や環状の配置がとられていた。集落の中で不要となった土器、石器などを廃棄した捨て場も形成され、数百箱や千箱を超えるような出土数量となる。また、土偶や石棒を用いる縄文時代の祭祀が盛んに行われるようになる時期でもある。

ここでは、県内の縄文時代中期前半の文化の様相を、縄文土器を中心に検討していきたい。

## 2 縄文土器に見られる活発な文化交流

大木式土器は東北地方南部を中心とする縄文時代前期から中期の土器型式であり、山形県も分布域に含まれる。宮城県七ヶ浜町大木冨貝塚の土器を標識とし、山内清男により土器型式が設定された(山内 1937)。大木式土器は幾つかに細分されており、中期前半は、大木 7a・7b・8a 式である。

県内の中期前半の大木式土器が出土している代表的な遺跡として、最上町水木田遺跡(中期初頭・前葉)があげられる(山形県教委 1984)。

水木田遺跡は、最上町大字月楯字水木田に所在する。新庄盆地の東方、向町盆地を流れる小国川の河岸段丘上に立地する。調査は、最上町教育委員会の協力を得て山形県教育委員会が昭和 53 年に実施した。

当遺跡の出土資料は、中期初頭・前葉の大木 7a 式土器、大木 7b 式土器が中心であるが、中期中葉の大木 8a 式土器も報告されている。遺物出土箱数は 1000 箱に及ぶ。平成 23 年に出土資料は重要文化財に指定された。

水木田遺跡で出土している大木 7a 式土器には、関東や中部地方を主な分布域とする五領ヶ台式土器の影響を受けたと考えられるものが認められる。この五領ヶ台式の土器は、山形県内だけではなく、福島・宮城・岩手・秋田県の広域にわたって出土している。

次の時期の大木 7b 式土器は、当遺跡の出土の主体を占めている。大型の長胴の深鉢、4 単位の大波状口縁、波頂部の装飾、体部の Y 字状懸垂文や縦方向の綾絡文などが特徴的で、押圧縄文による装飾も多用される。この時期も引き続き五領ヶ台式の土器が伴う。他の地域からの影響が見られる土器として、北陸の新崎式土器が少量ながら出土し、北東北に由来する円筒上層 b 式土器も認められる。

## 3 県内各地域における中期前半の縄文土器の様相

上記のように、山形県内の中期前半の縄文土器は、大木式を主体としながらも、関東地方、北陸地方、北東北などの他地域の影響が見られる土器が含まれ、広域にわたる土器文化の交流が顕著に表れる時期といえる。また県内の各地域では、その影響の受け方について、それぞれ特徴的な在り方が見られる。以下、庄内・最上・置賜・村山地方について各地域の様相について述べたい。

### (1) 庄内平野と周辺地域の様相

当地域は日本海沿岸に面しており、海沿いのルートを通じて縄文時代前期から北陸地方や北東北の

影響を受けてきた地域である。遊佐町吹浦遺跡では、前期末大木 6 式期を主とする時期であるが、北陸地方や北東北に見られる土器が出土している（渋谷・黒坂 1988）。この傾向は、中期中葉・前葉を通じて認められる。

中期中葉の時期であるが、鶴岡市（旧羽黒町）郷の浜 J 遺跡は前期末大木 6 式期から大木 7a 式期の土器が出土している（川崎ほか 1981）。内容を見ると、北陸の新崎式が出土の多くを占めており、大木 7a 式土器は客体的である。円筒系土器も量的に多くはないが出土している。

鶴岡市西向遺跡は、中期中葉の時期に位置づけられる。北陸地方の新保・新崎式土器が出土の主体を占め、全体の 74%と報告されている（須賀井 2004）。北陸系土器は 6 群に分類され、2 段階の変遷が想定されている。大木式土器については大木 7a 式、7b 式土器が出土しているが、北陸系土器の手法を用いて文様が描かれたものがある。北東北に由来する、円筒上層 a～c 式土器が少量ながら出土している。

北陸系土器の出土が顕著な傾向は庄内地方の他遺跡にも認められる。

酒田市飛島に位置する蕨山遺跡では中期中葉の北陸系土器、大木 7b 式土器、円筒上層 b 式を主体とする土器が出土している（齊藤 1993）。

遊佐町小山崎遺跡でも、前期末～中期中葉の時期の北陸系土器が出土している（渋谷・竹田 2001）。

中期中葉の大木 8a 式期になると、北陸系土器の出土割合は少なくなる。円筒上層式土器も稀である。

鶴岡市岡山遺跡では、第 6 次調査で大木 8a 式土器が出土の中心を占めているが、少量ながら馬高式土器の出土が認められる（佐藤ほか 1975）。

遊佐町柴燈林遺跡では、全体の器形が把握できる火焰形の馬高式土器が出土している（佐藤 2005）。大木 8a 式期に伴うものである。同地点で出土している 8a 式土器は、突起の形状などが馬高式土器の影響を受けたとみられるものや、県内の内陸では見られない形態のものも確認される。

## (2) 新庄盆地と周辺域の様相

新庄市中川原 C 遺跡は、大木 7b 式期から大木 8a 式期を中心とする集落跡で、平成 11・12 年にかけて山形県埋蔵文化財センターによる調査が行われ、1000 箱を超える遺物が出土している（佐竹ほか 2002）。

第 1 群土器が大木 7b 式古段階、第 2 群土器が大木 7b 式新段階、第 3 群土器は大木 8a 式古段階、第 4 群土器は大木 8a 式新段階に位置付けられている。第 1 群土器は、4 単位の大波状口縁、文様に交互刺突文が見られる。第 2 群土器は、押圧縄文が多用され、隆帯上への縦方向の連続した押圧縄文や縄文施文が目立つ。大木 8a 式古段階では、口縁部への S 字状の突起、縦位の連続した押圧縄文が主な文様として認められる。新段階は隆帯などによるクランクや渦巻状の文様が多い。当遺跡は、円筒土器そのものの出土は報告されていないが、大木 7b 式土器に円筒上層式土器と一部類似する文様構成をとるものや押圧縄文による加飾が顕著な個体が認められる。

舟形町西ノ前遺跡は、大木 7b～8a 式期が中心の時期と考えられる集落跡で、沢状の落ち込み SX261 を中心に約 900 箱の遺物が出土している（黒坂 1994）。大木 7b 式、8a 式土器が出土の中心を占める。大木 7b 式土器には、口縁部文様の多くを押圧縄文で表現する個体が認められる。他型式の土器であるが、僅かながら五領ヶ台系の土器や、北陸の新崎式土器の出土が認められる。

その他、北陸系土器については、大木 7b 式土器と新崎式土器が共伴して出土している大蔵村上竹野遺跡の事例がある（菅原ほか 2019）。

### (3) 米沢盆地と周辺地域の様相

当地域で注目される遺跡では、米沢盆地の米沢市台ノ上遺跡があげられる。

台ノ上遺跡は、米沢市教育委員会によって調査が行われた。前期末大木 6 式期から中期後葉の大木 9 式期にかけて集落は存続し、調査面積は延べ 9,000 m<sup>2</sup>以上、検出された竪穴住居跡は 129 棟以上である（菊池 1997・2006）。当遺跡は、地域の中核的な集落と考えられ、かつ会津方面や福島方面からの影響を受けていた事が想定される。

大木 7a 式期であるが（B 群土器）、大木 7a 式土器の他に、北陸系土器に類似、もしくはそれを変容したと思われる竹管文を多用した土器が一定量を占める。また、関東系土器（五領ヶ台式）やその影響を受けたと思われる個体も、県内の他地域よりも多い。会津や福島方面から他地域の土器文化の流入が多分にあった事が推測される。

大木 7b 式期は、大木 7b 式土器が主体であるが、この時期に伴うと考えられる東関東由来の阿玉台系の土器が少量ながら認められる。後続する大木 8a 式期であるが、馬高式土器などの北陸系土器は伴っていないようである。

長井盆地に位置する宮遺跡は、長井市教育委員会によって 5 次にわたる発掘調査が行われている。当遺跡で主体を占める土器は、大木 7b 式、大木 8a 式土器である。大木 7b 式土器は大波状口縁の土器や平縁の深鉢が認められる。大木式土器以外の土器では、北陸系土器の影響を受けていると思われる土器が少量ながら出土している（岩崎 2003・菅原 2019a）。また、大木 7b 式期に併行すると考えられる阿玉台式に類似する土器も認められる。

長井市空沢遺跡では、北陸系土器（馬高式）が出土している（水戸部 2005）。大木 8a 式期に伴うものと考えられる。

小国町谷地遺跡は、日本海側に流れる荒川流域に位置しており、新潟方面から県内の内陸に至る経路上に位置していたと考えられる。竪穴住居跡 29 棟が検出され、中期中葉の時期とされる。出土土器の時期は、大木 7b～8a 式期である。また、第Ⅰ群土器は、竹管文を多用する北陸系（新崎・上山田古式・上野・古屋敷式）の土器で、出土量の半数近くを占める（佐藤ほか 1983）。この他、第Ⅱ群土器は交互刺突文が見られ、その変形や結節沈線文などが見られる土器であり、関東系（五領ヶ台式）の影響を受けている土器である。第Ⅲ群土器は、撚糸圧痕文を主な文様要素とする土器で、大木 7b 式土器に位置づけられる。大木 7b 式期は、北陸系土器を主に、大木 7b 式土器と関東系土器やその影響を受けた大木 7b 式土器と一緒に出土している状況である。また、後続するⅣ群土器の大木 8a 式土器は、この時期の出土の大半を占め、時期的に併行する北陸系の馬高式土器は少量である。

### (4) 山形盆地と周辺地域の様相

天童市板橋 1・2 遺跡では（齋藤 2004）、大木 7a 式・7b 式土器が出土している。板橋 1 遺跡では、大木 7a 式土器の古段階の資料が出土しており、口縁部に連続する刻目を施す文様が主体である。板橋 2 遺跡では、大木 7a、7b 式にわたる資料が出土しており、連続する刻目、三角形の刺突列、交互刺突文が見られる。五領ヶ台式土器の影響を受けていると考えられる。

山形盆地の北側に位置する尾花沢盆地内に位置する尾花沢市原ノ内 A 遺跡は、大木 7b 式期から 8b 式期にかけての集落跡である。中期前葉は大木 7b 式土器が主体であり、水木田遺跡と同様に大波状口縁の長胴形の深鉢が特徴的である。僅かにこの時期に伴うと考えられる北陸系土器（新崎式）が認められる。大木 8a 式土器は、古・新の時期が確認される。この時期に伴うと考えられる馬高式土器の体部下半の土器が出土している（安部・月山 1988）。搬入品の可能性が考えられる。

山形盆地内は、中期初頭から前葉にかけて五領ヶ台式土器の影響が強く認められるが、北陸系土器の出土は僅かである。また、円筒上層式土器も出土する事例がある。搬入によるものなのかどうか興味深い。大木 8a 式期は、大木式土器の主体的な分布圏である。

#### 4 県内の縄文中期前半の土偶

縄文時代の主な祭祀遺物の土偶であるが、県内の縄文時代前期において、製作は活発ではなかった。中期前葉になると、頭部がつぶれて顔の表現は無いが、脚を備え立像となるものが出現する。大木 7b 式期に入ると、水木田遺跡の事例のように大型化が進み、西ノ前型式（西ノ前タイプ）と呼ばれる特徴的な形態の土偶が成立するようになる。

西ノ前型式の土偶は、大木 8a 式期になると、舟形町西ノ前遺跡の縄文の女神を中心に、大きさはピークに達する。西ノ前型式の土偶は、山形盆地や新庄盆地、庄内平野、奥羽山脈の東側の仙台平野などにも認められる。

一方、県南部の台ノ上遺跡を中心とした地域では、福島県地域に見られる西ノ前型式の亜種とされる土偶が主体であることが指摘されている（阿部 2019）。

#### 5 まとめ

県内の縄文時代中期前半の縄文土器に認められる文化様相であるが、中期の初頭から前葉（大木 7a 式～7b 式期）にかけて、関東地方や北陸地方に由来する土器文化の流入、受容が認められる。この時期は、集落遺跡の増加、規模の拡大、長期的継続が顕著な時期である。おそらく、影響は一方通行的なものではなく、関東・北陸地方でも東北系の土器文化の流入や交易も同様に盛んであったものと考えられる。後続する中期中葉の大木 8a 式期は、大木式土器が土器文化の主体であり、逆に他地域へと影響を発信する力が大きくなる。

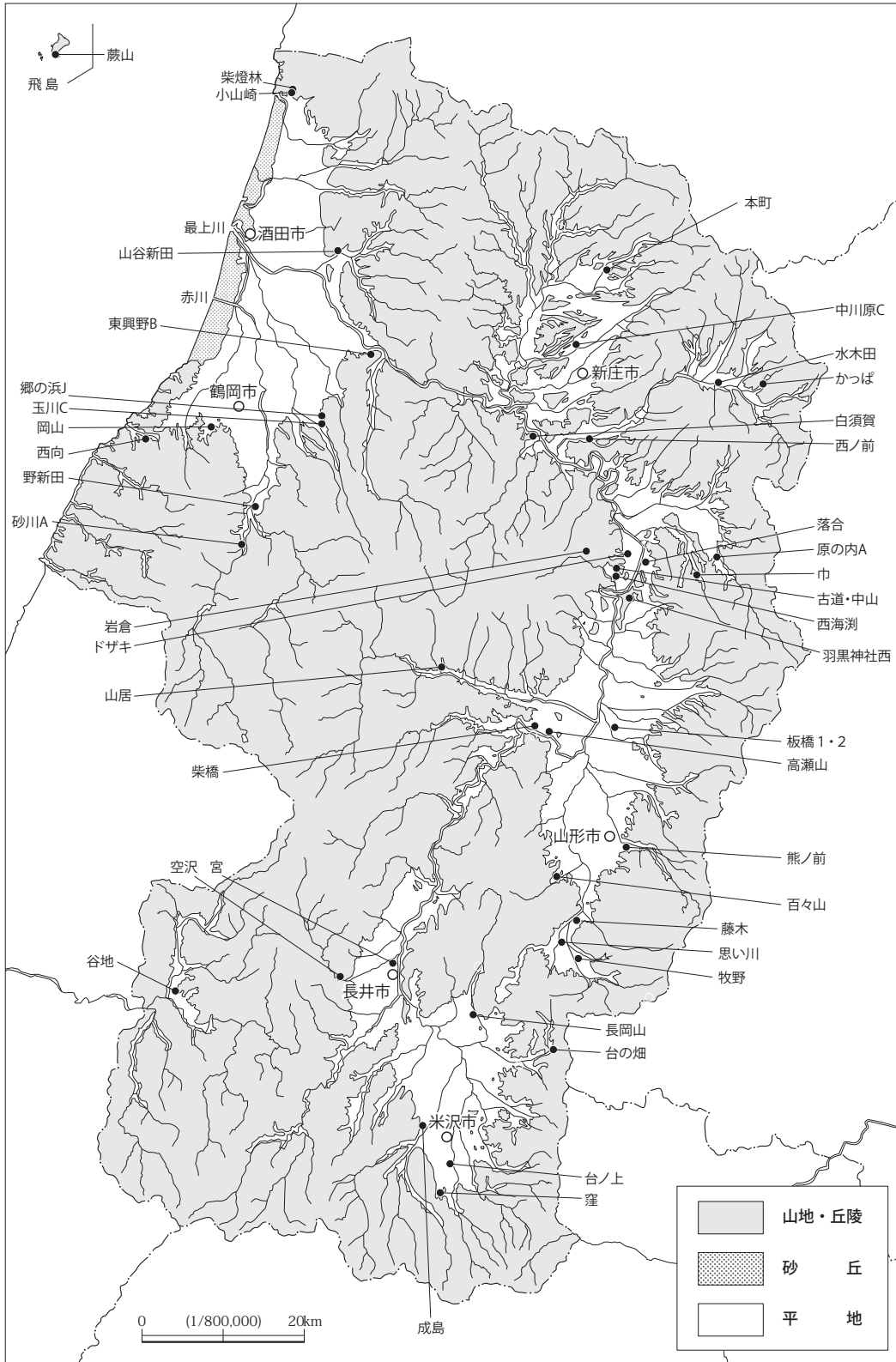
土偶についても、他地域からの文化の受容にあわせるように、立像化、大型化、出土個数が増加する。そして県内の地域毎の土器文化に対応するように県南と県北で各々特徴的な土偶文化が展開してゆく。

#### 引用・参考文献

- 阿部明彦 2016 「水木田遺跡にみる縄文時代中期前半の世界」『うきたむ考古』 pp1-44  
阿部明彦 2019 「西ノ前型土偶」と「続西ノ前型土偶」『第 16 回土偶研究会 山形大会』土偶研究会 pp. 3-30  
安部実・月山隆弘 1988 『原の内 A 遺跡第 3 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 132 集  
岩崎義信 2003 『市内遺跡発掘調査報告書 (11)』山形県長井市埋蔵文化財調査報告書第 22 集  
江坂輝彌 2018 『日本の土偶』講談社  
加藤三千雄 2008 「新保・新崎式土器」『総覧縄文土器』 pp. 450-457  
川崎利夫・野尻侃・安部実 1981 『郷の浜 J 遺跡』山形県埋蔵文化財調査報告書第 50 集  
黒坂雅人 1994 『西ノ前遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 1 集  
菊池政信 1997 『台ノ上遺跡発掘調査報告書』米沢市埋蔵文化財調査報告書第 55 集  
菊池政信 2006 『台ノ上遺跡発掘調査報告書』米沢市埋蔵文化財調査報告書第 88 集  
小林圭一 2017 「宮城県七ヶ宿町小梁川遺跡の集落構成」『研究紀要』第 9 号 pp19-44

- 齋藤健 2004『板橋 1 遺跡第 2 次発掘調査報告書・板橋 2 遺跡第 2～4 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 125 集
- 齊藤主税 1993『蕨山遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 189 集
- 佐竹桂一ほか 2002『中川原 C 遺跡・立泉川遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 98 集
- 佐藤鎮雄ほか 1975『岡山遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 4 集
- 佐藤正俊・長橋至 1983『原の内 A 遺跡第 2 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 71 集
- 佐藤正俊ほか 1983『農林事業関係遺跡 (1) 発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 63 集
- 佐藤禎宏 1981「山形県における縄文領域論のための基礎作業」『さあべい』第 3 巻第 3 号 pp1-22
- 佐藤禎宏 2005『小山崎遺跡第 8～11 次調査概要報告書』遊佐町埋蔵文化財調査報告書第 4 集
- 渋谷孝雄・伊藤純子 2020『保存修理事業終了記念第 28 回企画展 水木田遺跡遺跡と縄文時代中期前半の山形』山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
- 渋谷孝雄・黒坂雅人 1988『吹浦遺跡第 3・4 次緊急発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 120 集
- 渋谷孝雄・齋藤久美子 2015『第 23 回企画展重要文化財水木田遺跡展』山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
- 渋谷孝雄・竹田純子 2001『小山崎遺跡第 4 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 91 集
- 須賀井新人 2004『西向遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 130 集
- 菅原哲文 2018「山形県内の中期中葉土器群の様相」『馬高式土器の成立・展開・終焉—予稿集—』津南町教育委員会 pp. 197-212
- 菅原哲文 2019a「第二節 縄文時代中期の長井」『長井市史通史第 1 巻・原始・古代・中世編』pp. 105-148
- 菅原哲文 2019b「山形県内の縄文時代中期の土偶」『越後・津南の土偶—河童形土偶とその地域性予稿集—』津南学叢書第 37 輯 pp. 79-99 津南町教育委員会
- 菅原哲文ほか 2019『上竹野遺跡第 1・2 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 234 集
- 田村正樹 2018『大木式土器の世界』七ヶ浜町歴史資料館
- 塚本師也 2008「阿玉台式土器」『総覧縄文土器』pp. 384-391
- 寺崎裕助・宮尾亨 2011『にいがたの土偶』新潟県立歴史博物館
- 早瀬亮介・菅野智則・須藤隆 2006「東北大学文学研究科考古学陳列館所蔵大木冨貝塚出土基準資料—山内清男編年基準資料—」Bulletin of Tohoku University Museum, No. 5, pp. 1-40
- 三上徹也 2014『縄文土偶ガイドブック』新泉社
- 水戸部秀樹 2005『空沢遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 144 集
- 山形県教育委員会 1984「水木田遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第 75 集
- 山形県立博物館 2015『平成 27 年度山形県立博物館プライム企画展「縄文の女神」と「遮光器土偶」』
- 山内清男 1937「縄文土器型式の大別と細別」『先史考古学』1 巻 1 号

山本典幸 2008 「五領ヶ台式土器」『総覧縄文土器』 pp. 376-383



山形県の縄文時代中期前半の主な遺跡

## 山形県の縄文時代中期前半の文化動態



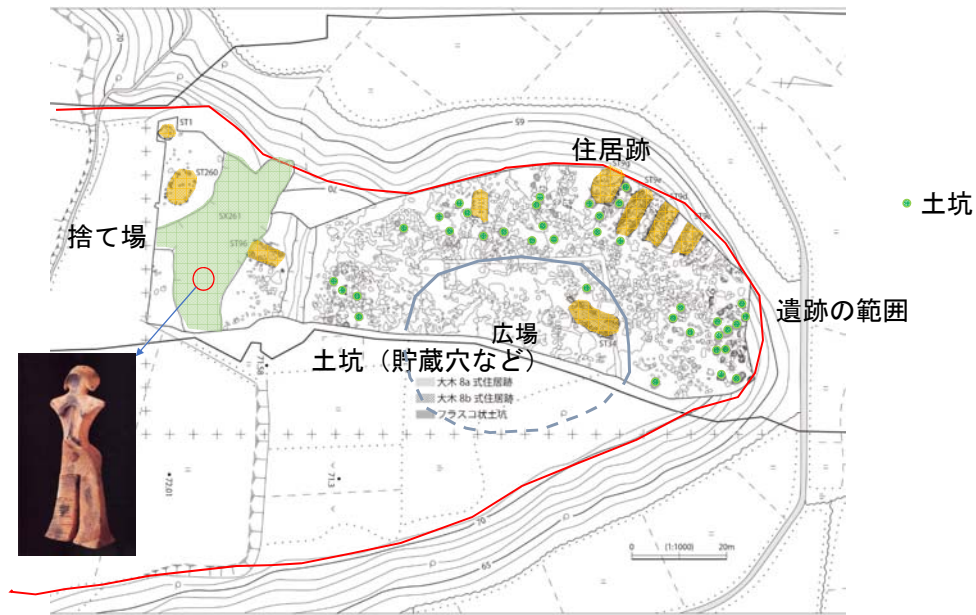
多賀城市教育委員会 菅原哲文

### 縄文時代中期前半はどんな時代？

- ・ 遺跡数の急激な増加と、各地域に拠点的な集落の形成
- ・ 大型住居跡を中心とする大規模集落
- ・ 縄文土器の文様・装飾の複雑化、立体化
- ・ 土偶祭祀の定着と土偶の大型化
- ・ 活発な他地域との交流（他地域から影響を受けた縄文土器、祭祀遺物）



## 西ノ前遺跡の縄文ムラ



## 東北地方南部、中期前半の土器一大木式土器

・宮城県七ヶ浜町大木冨貝塚の発掘調査により、山内清男が大木式諸型式を設定。

・時期、地域毎にある特徴をもつ土器のまとめ「型式」

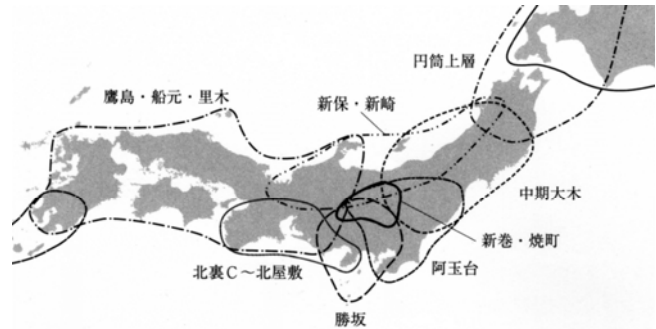
・1937年の「縄紋土器型式の大別」において、大木1～6式を前期に、大木7a～10式を中期に位置づける。

	渡島	陸奥	陸前	関東	信濃
早期	住吉	(+)	槻木 1 // 2	三戸・田戸下 子母口・田戸上 茅山	
前期	石川野×	円筒土器 下層式 (4型式以上)	室浜 大木 1 // 2a,b // 3-5 // 6	蓮花積下 田・関山 式・黒山 諸磯 a,b 十三菩提	
中期	(+)	円筒上 a // b (+) (+)	大木 7a 大木 7b 大木 8a,b 大木 9,10	五嶺台 阿玉台・勝坂 加曾利E // (新)	
後期	青柳町×	(+) (+) (+) (+)	(+) (+) (+) (+)	堀之内 加曾利B // 安行 1,2	
晚期	(+)	亀ヶ岡式 (+) (+) (+)	大洞 B // B-C // C1,C2 // A,A'	安行 2-3 安行 3	佐

▲表3 1937年に発表された土器編年表(縄紋土器型式の大別)

## 山形県内中期前半の縄文土器

- ・ 大木式土器（南東北）
- ・ 円筒上層式土器（北東北）
- ・ 新保・新崎式土器（北陸系）
- ・ 馬高式土器（北陸系）
- ・ 五領ヶ台式土器（関東系）
- ・ 阿玉台式土器（関東系）



⑤ 中期中葉：藤内式併行期 ca.3200calBC

## 縄文中期の土器型式分布

（『総覧縄文土器』より）

## 中期中頭・前葉の県内の様相

- ・ 大木7a・7b式土器の分布圏
- ・ 日本海側は、北陸系土器の分布が多い。内陸部の遺跡にも少量認められる。
- ・ 新保・新崎式土器
- ・ 日本海側には、円筒上層式土器が少量認められる。内陸の遺跡から僅かに出土。



新保・新崎式土器  
分布圏

## 中期中葉の県内の様相

### ・ 大木8a式期

大木式土器の分布が強固となる時期。

### ・ 北陸由来の馬高式土器

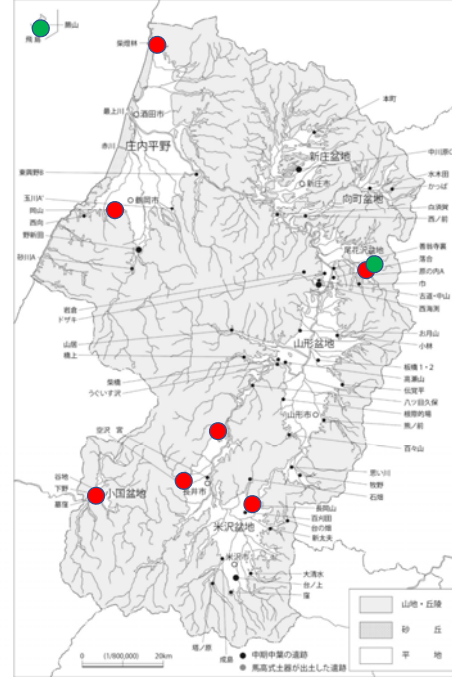
(火焰土器) 出土量と分布範囲は縮小

・ 円筒上層式土器 (上層d式)、出土は稀。

● 馬高式土器

● 円筒上層d式土器

図1 山形県の縄文時代中期中葉の主な遺跡



## 庄内平野と周辺の様相

### 鶴岡市西向遺跡出土の北陸系土器

#### ・ 新保・新崎式土器

・ 出土土器の多くを (3/4) 占めている。



・ この遺跡の人々は、北陸系土器の文化を持っていた。



## 西向遺跡出土の大木式土器

- ・ 大木7a・7b式土器
- ・ 出土は客体的。
- ・ 文様を描く手法は北陸系土器の方法を用いるものもある。



## 西向遺跡の円筒上層式土器

- ・ 中期初頭の円筒上層a式土器が中心
- ・ 出土量は少ない。
- ・ 縄の圧痕文が特徴的。



## 蕨山遺跡 出土した北陸系土器

- ・北陸系の新保・新崎式土器



## 蕨山遺跡 出土した円筒土器

- ・前期の円筒下層d式、中期の円筒上層式土器が出土。
- ・北陸系土器よりも出土量は少ない。
- ・大木式との折衷と考えられる土器もある。在地で作られた可能性が高い。



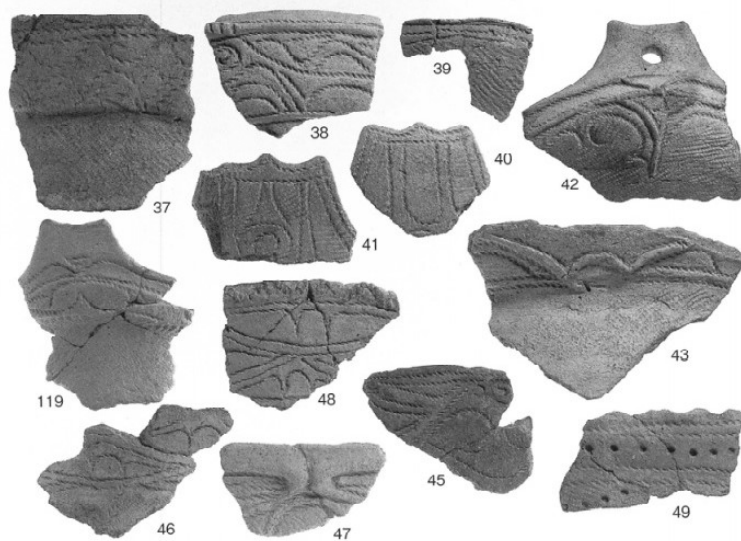
## 蕨山遺跡

### 出土した円筒土器

- ・ 円筒上層 b 式
- ・ 円筒上層 d 式

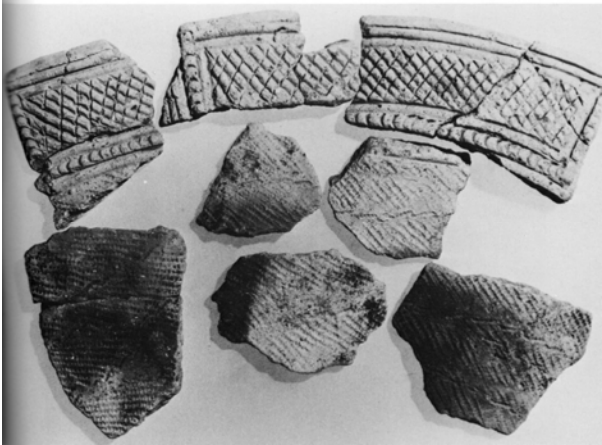


## 蕨山遺跡 出土した大木式土器



## 鶴岡市郷の浜J遺跡

- ・ 前期末から中期初めの時期。
- ・ 北陸系土器（新保式等）が主体。大木7a式土器、円筒土器も認められる。



- ・ 新保式土器



## 郷の浜J遺跡

- ・ 大木7a式土器（古い段階）。出土量は少ない。
- ・ 平行沈線文間に刻み目、隆帯上に刻み目や押圧。

朝日下層式（前期末）



大木7a式

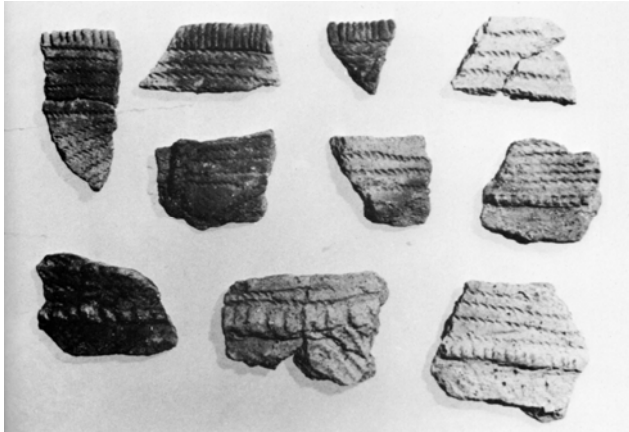


新保式



## 郷の浜J遺跡

- ・ 円筒土器と考えられるもの  
円筒上層a式が中心か

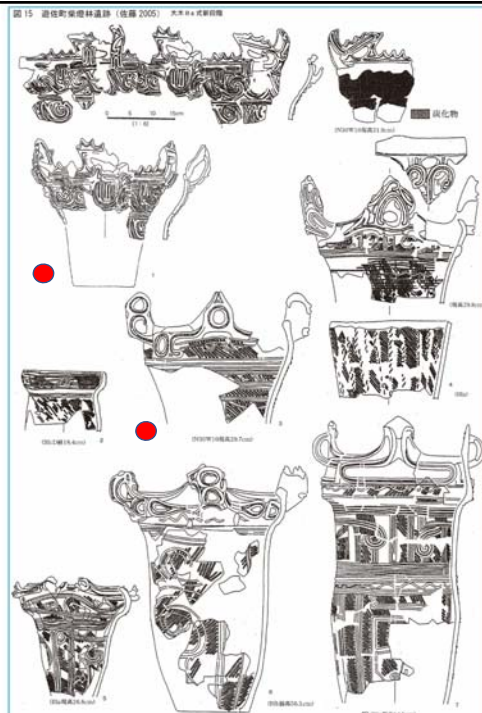


## 遊佐町柴燈林遺跡

- ・ 庄内平野の北端、秋田県境に近い位置
- ・ 包含層で大木8a式新段階が主体、  
馬高式土器（火焰型土器）も伴う



8 庄地区第1区iiの土器検出状況



柴燈林遺跡の火焰型土器



大木8a式土器 (新段階)



柴燈林遺跡出土土器



9 深鉢形土器(40)

大木8a式土器

大木7b~8a式土器



馬高式土器



## 鶴岡市岡山遺跡

庄内平野の南端部に位置。6次にわたる調査。前期末と中期中葉を中心とした集落跡。

馬高式土器（3群g類土器）が出土。

図14 鶴岡市岡山遺跡（佐藤ほか1975） 大木8a式（1～9） 馬高式土器（10～17）



第3群g類土

## 新庄盆地と周辺の様相

### 最上町水木田遺跡

- ・ 新庄盆地の東、向町盆地に位置する。
- ・ 昭和53年に山形県教委による調査、1000箱に及ぶ遺物
- ・ 大木7a・7b・8a式期にわたる縄文土器、重要文化財に指定された。
- ・ 大木式土器以外に、関東の五領ヶ台系の土器、北陸の新崎式土器、北東北の円筒上層式土器が出土。



## 水木田遺跡の大木7a式土器

- ・ 波状口縁が特徴的
- ・ 波頂部にあわせて縦の隆帯貼り付け、押圧や刺突文
- ・ 体部は無文が多い



## 水木田遺跡の大木7a式土器

関東地方の五領ヶ台式の影響を受けていると思われる土器

- ・ 体部上が大きく内湾して膨らみ、口縁部が短く開く器形
- ・ 三角形の刺突、刻み目、交互刺突文、波状文



8



5

## 水木田遺跡の大木7b式土器

- ・長胴形で四単位の大波状口縁、頂上部に装飾
- ・弧状文、体部にY字状の懸垂文
- ・縦方向の縄文、綾絡文
- ・交互刺突文



## 水木田遺跡の大木7b式土器

- ・縄文を押しつける文様が多様される
- ・浅鉢も波状口縁が多い



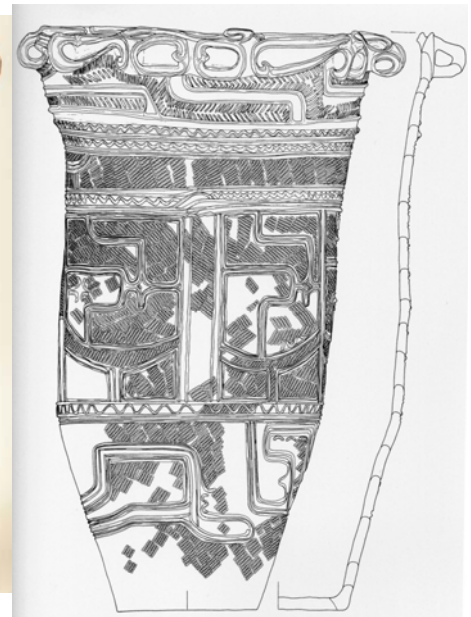
### 水木田遺跡の円筒上層式土器

- ・北東北を中心に分布する円筒上層b式土器。大木7b式土器と同じ時期と考えられる。
- ・円筒形の器形、縄を押しつける連続した弧状の文様が特徴的
- ・日本海側の出土が主で、県内の内陸部では出土が非常に少ない。



### 水木田遺跡の大木8a式土器

- ・長胴の大型深鉢、高さ89cm
- ・口縁部を一周する透かし状の突起
- ・クランク状や波状の隆帯貼り付け文
- ・同様の文様構成の深鉢は、村山市落合遺跡などにも認められる。



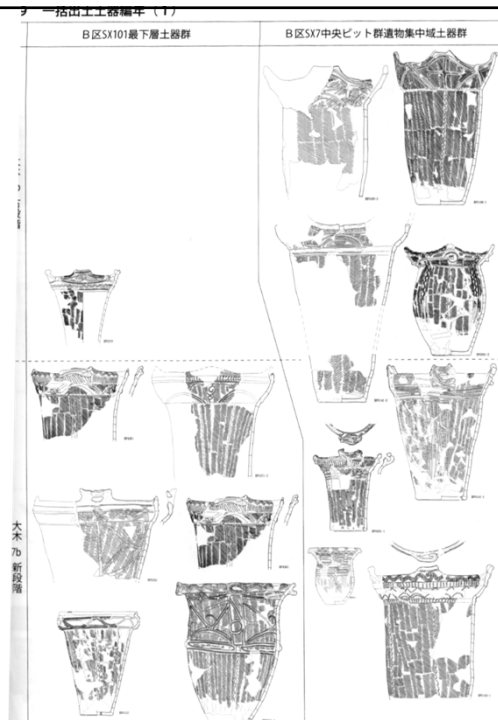
## 新庄盆地と周辺の様相

### 新庄市中川原C遺跡

新庄市に所在。泉田川左岸台地上に立地。中期大木7b式～8a式期の集落跡。1000箱を超える遺物。

大木7b・8a式土器を古・新の2段階に細分（佐竹2002）

大木7b式土器は、B区SX101最下層、SX7中央ピット群遺物集中域より出土。



### 中川原C遺跡

### 大木7b式古



RP0266



RP018E



RP0091

## 中川原C遺跡 大木7b式新



RP0946



## 中川原C遺跡

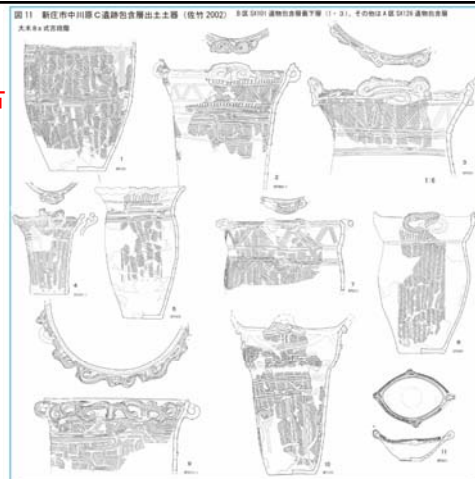
大木8a式土器古段階（第3群土器）・新段階（第4群土器）が遺物包含層より出土。

古段階—S字状の4単位突起・口縁部に角形の押圧文・押圧縄文、胴部にS字文やクランク文

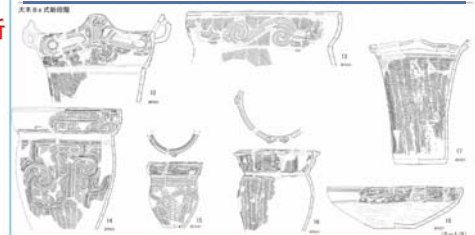
新段階—口縁部突起のない平口縁、小型のキャリパー形が多い。S字文・クランク文・渦巻文

円筒上層式土器そのものは出土していないが、その影響を受けたと思われる個体も認められる。

8a式古



8a式新



中川原C遺跡

大木8a式古段階



中川原C遺跡

大木8a式新段階



## 舟形町西ノ前遺跡

大木7b～8a式土器が主体

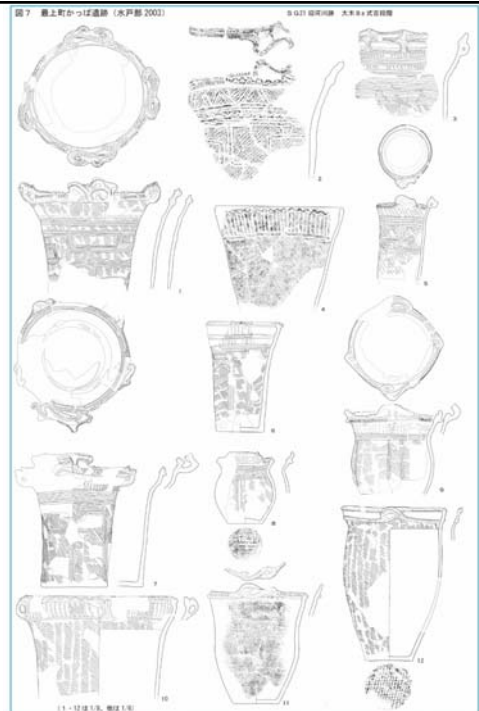
大木7b土器

北陸系土器



## 最上町かっぱ遺跡

- ・新庄盆地よりも東側の向町盆地に位置する。
- ・旧河跡SG21より大木8a式古段階の資料が出土。
- ・口縁部にS字状突起・橋状把手、縦方向の連続する押圧縄文列、刻み目
- ・体部に曲折文、波状文、懸垂文
- ・外反口縁の深鉢、キャリパー形の深鉢がある。口縁部に文様を展開させ、体部が縄文のみのものがある。





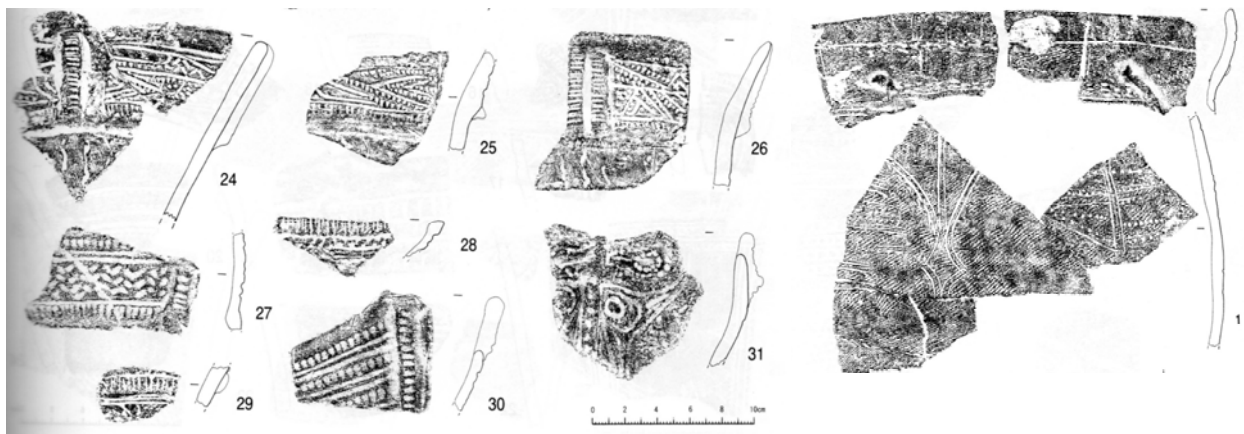
## 米沢盆地と周辺の様相

### 米沢市台ノ上遺跡

- ・ 当地域の中期前葉から中葉にかけての中核的大集落
- ・ 前期末大木6式期から中期後葉の大木9式期にかけて集落が存続
- ・ 福島の会津盆地や福島盆地方面との交流により、関東地方の影響が認められる土器が他地域よりも多い。また、北陸地方の影響を受けた土器も認められる。

### 米沢市台ノ上遺跡 大木7a式期

- ・ 関東の五領ヶ台式に類似した土器が多い。
- ・ 竹管による連続した刺突文など、北陸系に関係する可能性のある土器もある。



### 米沢市台ノ上遺跡

五領ヶ台式の影響を受けた土器



### 米沢市台ノ上遺跡

大木7b式土器



## 米沢市台ノ上遺跡

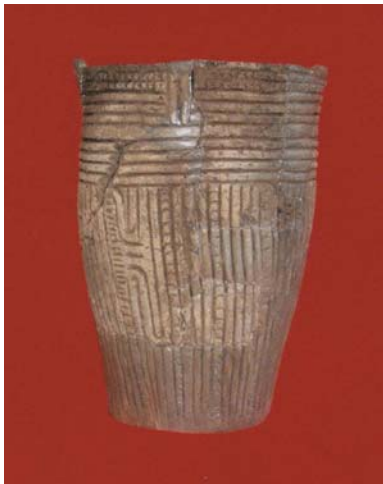
### 大木7b式土器

- ・ 押圧縄文による文様が認められる土器



## 台ノ上遺跡 ・ 中期前葉の北陸系土器

- ・ 北陸系土器の文様をアレンジしたような土器が多い。



### 台ノ上遺跡

・大木7b式土器に伴う阿玉台系の土器



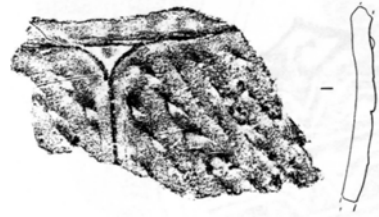
61



62



58



### 台ノ上遺跡

大木8a式土器（古段階） S次状の突起、クランク文、鋸歯文



遺物No.174



## 台ノ上遺跡

## 大木8a式土器（新段階）

- ・新段階一キャリパー形の器形、曲折文や渦巻文



## 米沢盆地と周辺の様相

- ・荒川流域の小国盆地に位置。中期前葉は北陸系土器が主体。

## 小国町谷地遺跡

- ・中期中葉は大木式土器が主体であるが、馬高式土器も出土。

図10 小国町谷地遺跡（佐藤・名和ほか1983） 包含層出土北陸系土器ほか 馬高式土器（19・20・24～27）



## 米沢盆地と周辺の様相・長井盆地

**長井市宮遺跡** ・大木7b式～8a式土器が主体。  
 ・少量の北陸系土器、関東系の影響が見られる土器が出土。

・大木7b式土器



## 長井市宮遺跡 大木7b式土器

- ・深鉢、鉢、有孔罌付土器
- ・阿玉台系と推測される土器



### 長井市宮遺跡

- ・大木7b式土器に伴うと考えられる北陸系土器
- ・竹管による爪形状の文様



### 長井市空沢遺跡

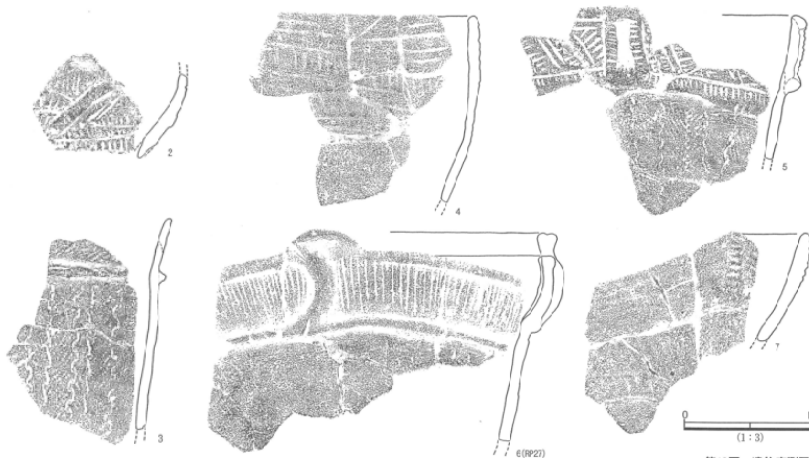
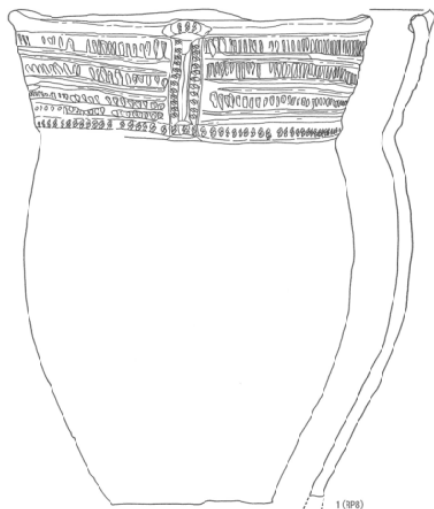
長井盆地西側に位置する。  
馬高式土器（火焰土器）が出土。



### 山形盆地と周辺の様相

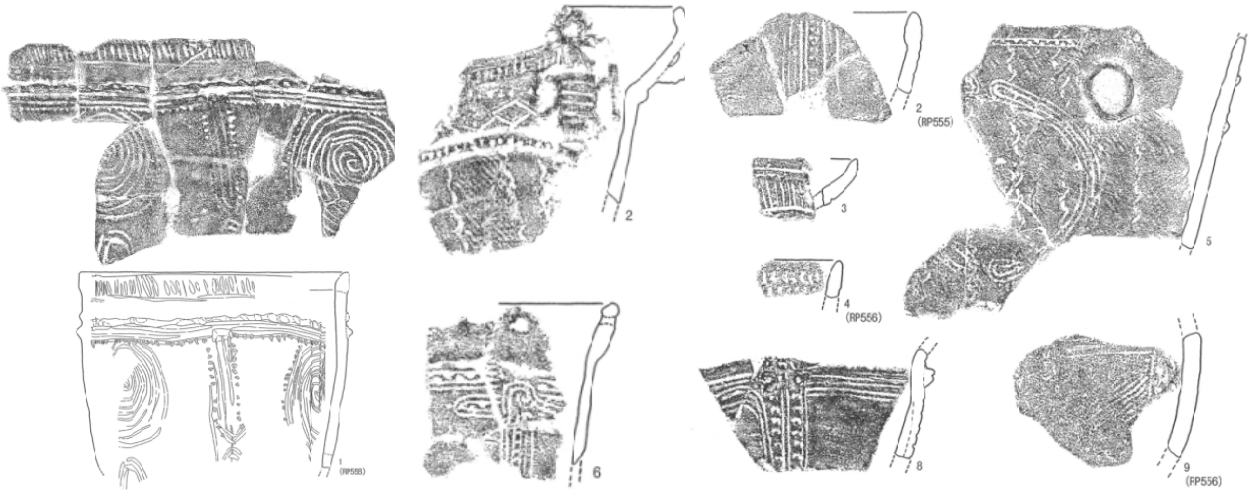
- ・板橋1遺跡出土の大木7a式土器  
(古)

### 天童市板橋1・板橋2遺跡



### 板橋2遺跡出土の大木7a式土器

- ・五領ヶ台系の土器の出現が顕著



## 山形盆地と周辺の様相

### 尾花沢市原の内A遺跡

山形盆地の北側にある尾花沢盆地に位置

- ・大木8a式新段階の資料がまとまっている。
- 大木8b式に近い文様構成
- キャリパー形深鉢多い。口縁部に波状文、部分的に渦巻文
- 体部に弧状文やあまり渦巻部が発達しない渦巻文
- ・馬高式土器の体部下半の資料
- ・大木8a式併行と思われる他型式の資料

8a式新



8a式新

8a式新

馬高式

8a式新

8b式中

## 尾花沢市 原の内A遺跡

### 大木8a式新段階

- ・ キャリパー形深鉢が主体
- ・ 波状文・曲折文・渦巻文、文様展開は大木8b式に近い。



SK81土坑



SK2土坑

## 原の内A遺跡

- ・ 少量ながら、北陸系の土器が出土している。
- ・ 馬高式土器は新潟方面からの搬入品の可能性が高い。

### 馬高式土器



33



異系統土器？

## 山形県内の中期前半の土偶について

- ・ 縄文時代中期になると立像のものが出現し、大型化、出土数の増加が顕著となる。
- ・ 県北の西ノ前遺跡を中心として、「西ノ前型式」と呼ばれる特徴的な形の土偶が出現する。
- ・ 西ノ前型式の土偶は、新庄盆地の他、山形盆地や庄内平野、宮城県の中中部などにも確認される。
- ・ 山形県の米沢盆地は、主として西ノ前型式の亜種と考えられる型式の土偶が存在し、福島や会津方面のあり方と類似している。

## 西ノ前遺跡の大型土偶（縄文の女神）

- 高さ45cmと全国で最大
- 頭部と肩の部分に穿孔  
→ 装飾があった可能性？
- 完全な形に復元できたのはこの個体のみ
- 「出尻形土偶」  
「西ノ前型式（タイプ）」



## 水木田遺跡の土偶

- ・ 大木7b式期の土偶

立像、大型化、有節沈線文による弧状や渦巻状の文様



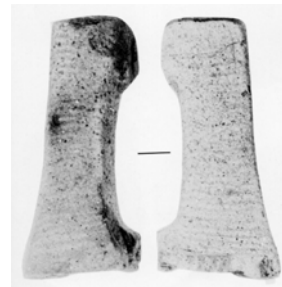
## 中川原C遺跡の土偶

- ・ 土偶41点が出土、大部分が西ノ前タイプ
- ・ カッパ形土偶も確認される
- ・ 頭部に複数の孔をもつ



## 尾花沢市原の内A遺跡

- 尾花沢盆地南東部、中期前半の集落跡
- 2・3次調査で土偶40点が出土、大部分が西ノ前タイプ
- 490箱の出土遺物



## 山形盆地南部の西ノ前タイプ土偶

山形市百々山遺跡



土偶の脚部

三脚土製品



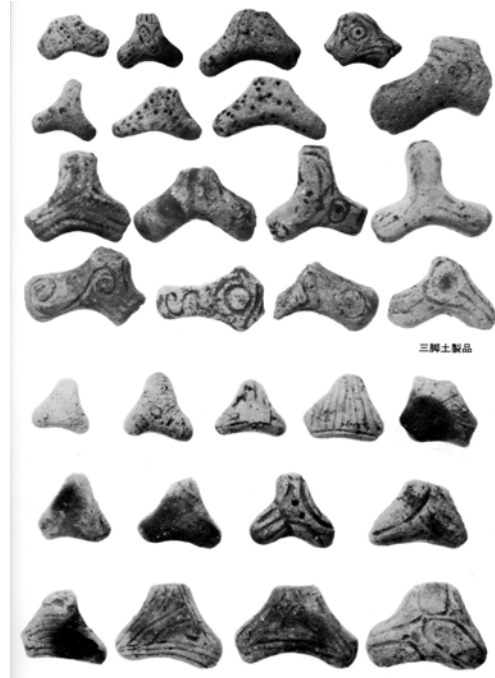
- 時期は西ノ前遺跡と同じ
- 正式な発掘は行われていない（明円寺尚古館蔵）。山形盆地南部の中心的なムラか

## 思い川A遺跡の三脚土製品

- 出土点数は土偶よりも多い32点が出土。
- 山形盆地南部や上山盆地に多い

地域的な特色

牧野遺跡（上山市）



## 台ノ上遺跡の土偶

- 県内で最大の土偶出土数（268点以上）
- 西ノ前タイプと同様の土偶
- カッパ形土偶も見られる
- 脚の形状がやや短いなど地域的な傾向がある



## 台ノ上遺跡の土偶

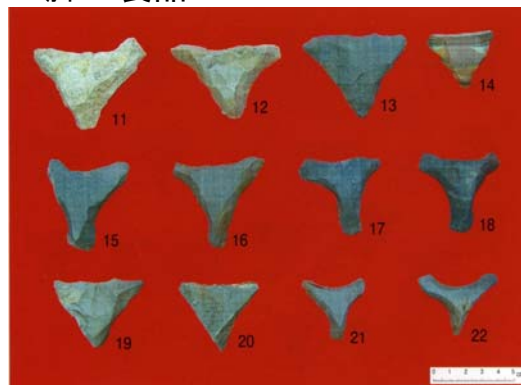


## 台ノ上遺跡の 石製品・土製品



## 土偶に準じる役割をもつ遺物

- 三脚石器—米沢盆地で特に多く認められる。252点以上
- 三角形石製品
- 三脚土製品



三脚石器

# 日本海沿岸部の土偶

## 山谷新田遺跡（酒田市）



・土偶3点が出土。  
2点は、北陸で流行する文様が施され西ノ前遺跡の土偶と異なる作り

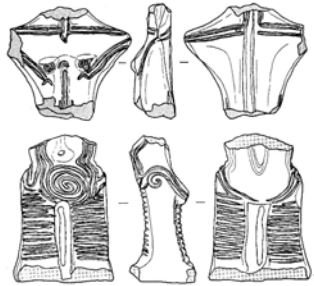


新潟市大沢遺跡の土偶  
(新潟大学旭町学術資料展示館)  
『にいがたの土偶』新潟県立歴史博物館2011年  
より



土偶の脚  
西ノ前遺跡の  
土偶と類似

# 玉川遺跡（鶴岡市）出土の土偶



玉川C遺跡出土土偶

・西ノ前タイプの土偶の他に、お腹を抱える姿勢の土偶が出土。



山梨県小淵沢町出土の土偶

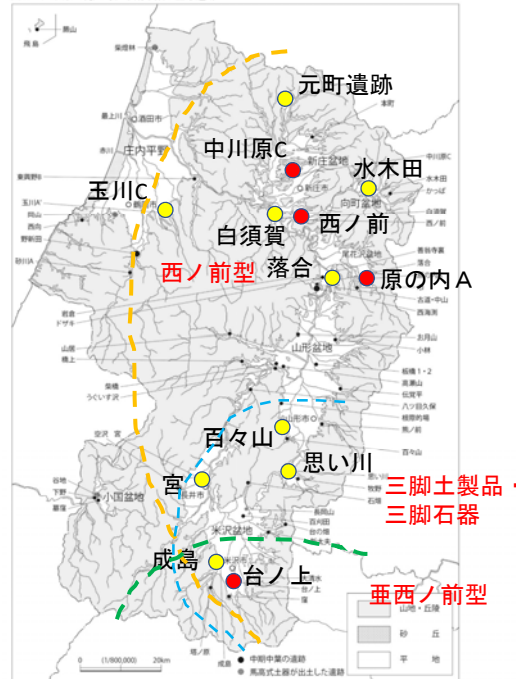


長野県茅野市尖石遺跡出土の土偶

## 西ノ前タイプの土偶の広がり

- 山形県の各地域に広く分布する。
- 中期前半の主な集落跡で出土
- 米沢盆地南部には、亜西ノ前タイプの土偶が認められる。
- 山形盆地から米沢盆地にかけて三脚土製品が、米沢盆地には三脚石器が分布する。

図1 山形県の縄文時代中期中葉の主な遺跡



## まとめ

- ・ 県内の縄文中期初頭から前葉は、北陸や関東地方を中心とした土器文化の影響が大きい。
- ・ 地域によって、関東や北陸の影響を受ける度合いが異なっている。
- ・ 大木8a式期になると、大木式土器の文化が強化され、逆に県外他地域へと波及してゆく。
- ・ 土偶は、県北・県央を中心に西ノ前型式の土偶が作られる。県南は福島方面の影響が強い亜種タイプが存在するなど、土器文化と類似した様相を示す。